

成果

参加した子どもたちから、勉強会に来て楽しかったという意見があった事が何よりの成果です。普段在籍学級や保護者に分からない事を聞けなかったり、何とかしたいけれどどうすればよいか分からないという悩みを個別対応する事で少しずつ理解でき、自分の力にすることができました。

そして本年は、通うのが困難な子に対して送迎バスを走らせることで参加者数や参加日数が昨年に比べて大幅に増加しました。

また、本年は新型コロナウイルスの感染拡大を受け休校措置がとられたことで基礎学力の定着が大きな課題になりました。学期間の空白期間に生活習慣を崩さず学習に取り組み、友人やボランティアスタッフと日本語で話せる環境を提供できたことに、大きな意味があると思います。

学校現場からも良い取り組みなので、ぜひ続けて行ってほしいとの声をたくさんいただきました。

課題

子どもたちによりきめ細やかな対応をしていくために、支援者として、よりたくさんの方の参加が必要です。そのために、大学等教育機関へ働きかけ、さらに学生の参加を促すことも必要です。

外国につながる保護者の啓発も大切です。国によっては勉強に親が関わることが無い場合もあるため、学校教育に無関心と映ってしまう場合も少なくありません。保護者に向けて、日本の教育制度や宿題に取り組むわが子への寄り添い方を共有する場面を作っていく必要があります。

保護者相談会

開催日	8月8日
時間	14時~16時

◆ 実施内容

保護者に子どもの宿題が「何」で「どのように取り組む」か説明する。

◆ 相談会の様子

参加した保護者は、説明よりもワークの丸付けを特に希望していました。「宿題の内容をもっと知ってほしい」と思う支援者と保護者との間に意識のずれが大きいと感じました。



他の市町の皆様へ

私たちの活動の様に、夏休みや冬休みに学習支援活動をしたいと思われた方は、是非ご連絡ください。連携できる機関や、必要なもの、運営のノウハウなどについては沢山の方と共有したいと思っています。活動の見学も事前にご連絡いただければさせていただきます。

他の地域でも支援の輪が花開き、外国につながる児童・生徒の学習環境が整っていく事を切に願っています。

Special Thanks

国際子育てサロン Fun Fun Salon様
学習支援教室 World Kids様
MIFILCO
コープ三重様

事前周知、情報発信
教材の貸し出し、ボランティアの協力
子どもを持つ保護者への情報提供
子どもたちのおかし・ジュースの提供



今後に向けて

鈴鹿市は、在住外国人の多いまちとして、情報の多言語化や相談窓口の充実が図られてきました。また、小中学校においては、外国人児童の円滑な受け入れや日本語学習に力を入れています。

しかし家庭学習は、親の経験や日本語力に大きく左右されます。外国につながる児童の基礎学力の定着や日本語を毎日話す環境整備は、これからの鈴鹿市の様々な産業を支える人材育成の一翼となると信じています。これからも鈴鹿市で活躍する若者を育てるという思いで取り組んでいきたいと考えています。ご協力いただける方は、お気軽に本協会まで、ご連絡ください。



長期休み時の 学習支援教室



公益財団法人鈴鹿国際交流協会(SIFA)

〒513-0801 鈴鹿市神戸1-17-5 鈴鹿市役所別館第3

TEL:059-383-0724 FAX:059-383-0639 E-mail: sifa@mecha.ne.jp

HP: <http://www.sifa.suzuka.mie.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/sifa.suzuka>

これまでの課題

- ▶ 日本語力だけでなく、数の概念や、計算・九九など基礎的な学力が定着していない児童が多い。
- ▶ 新型コロナウイルス流行による長期間の休校で、学習の定着ができていない児童が多い。
- ▶ 夏休みや冬休みの課題は家庭のサポートが必要であるが、外国籍の家庭では難しい場合がある。
- ▶ 毎日の保護者の送り迎えが難しかったために通えなくなる、あるいは、通えなくなった子がいる。
- ▶ 一人ひとりに合った支援を行う為、学校との密な連携やボランティアの育成が必要不可欠である。

事業目標

- ▶ 新型コロナウイルスに伴う休校措置の影響で基礎学力の定着が充分でない児童が学校生活を安心して送れるよう、学習習慣をつけ、繰り返し学習する。
- ▶ 宿題を終えて新学期に自信を持って投稿できるようにする。
- ▶ 外国籍児童の保護者をもつ子どもの宿題に対する不安感を取り除く。
- ▶ 教室では、スタッフや友人と日本語や母語で毎日話し、言葉を忘れないようにする。
- ▶ 学校や教育委員会、民間団体等の機関と連携しながら子どもたちの学習環境をつくる。

時期・場所・参加者数・支援者数 ()内は延人数

	時期	場所	参加者数	支援者
① プレ教室	7月25日	牧田コミュニティセンター	26名	21名
② 夏休み	8月3日～8月21日の平日 (8/12-8/14のお盆期間除く)	飯野小学校	53名 (426名)	53名
③ フォローアップ教室	8月29日	牧田公民館	19名	17名
④ 冬休み	12月24～1月7日 (12/26-1/4の期間除く)	飯野小学校	25名 (111名)	28名

事業内容

- ・オリエンテーション**
出された宿題を子どもと確認し、書き写す。
- ・ワーク**
まずは自分で取り組む。計算は、簡単な類題を解いてから、取り組む。分からない漢字はいくつか例示選択させる。または、辞書を使用する。
- ・ポスター作製**
ポスターの意味を確認する。美術教師と共に、下絵の書き方や、塗り方のコツを教わりながら進める。
- ・書写**
課題を確認する。書道の先生と筆の持ち方や筆運びを確認しながら取り組む。
- ・読書感想文**
書きたいと思う本と一緒に選ぶ。気になる部分をメモし、感想を交えてつなげていく。
- ・計算カード・音読**
音読は、読み間違いがないかを確認する。計算カードも繰り返し練習する。

1日の流れ



みんなの声



子どもたち

- ・今年の夏休みは楽しかったです。宿題が終わって、友達がいっぱいできました。
- ・ここにきたおかげで、出来なかった宿題などをたくさんおしえてもらったので本当にうれしかった。冬休みもまた来たいと思いました。

「また教室に行きたい」「次の教室はいつ？」との声が多かった

保護者

- ・夏休み中に毎日勉強する習慣も付き、計画的に進めていくことができ、とてもよかったです。
- ・楽しそうに教室へ行きました。ギリギリまで焦らずに、夏休み中に宿題を終えて、安心と誇りを持っていました。
- ・学校のリズムを崩すことなく続けられました。

「言葉や経験の欠落で親が手伝えない宿題を見てもらえてよかった」との声も多くあった

ボランティア

- ・日本語能力の差が大きく、指導が難しい。
- ・送迎を行ったことで、休まず参加できる児童が増えた。
- ・ボランティアの体制をしっかりとしていくほうがいい。
- ・日本語がまだあまりできない子たちの日頃のフォローなど、どうなっているのかなど、気になりました。



学校

- ・教室のことをクラスでもはなしてくれる。
- ・休み明けでも日本語を忘れていなかった。
- ・わからないところを聞けるようになった。
- ・自分で解こう、分かってようとするようになった。
- ・宿題を必ずやってくるようになった。
- ・1対1の時、日本語でのやり取りが増えてきた。

活動の様子



↑伊勢型紙のしおりづくりや型紙を使った作品作り
↓ポスターづくり ↓筆の持ち方から確認

↑送迎バスは、いつもにぎやか
↓お楽しみタイムは作品で交流

